

小 学 校

令和4年度

教育研究員研究報告書

外国語活動・外国語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究仮説	2
IV	研究方法	2
V	研究構想図	3
VI	研究内容	4
VII	研究の成果と課題	14

研究主題

主体的にコミュニケーションに取り組む児童の育成

I 研究主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）外国語活動・外国語では、外国語科の目標として、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」の育成を目指すことが示されている。

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」である。また、「再構築すること」とは、「多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した概念（知識）を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりすること」とされている。そして、「見方・考え方」を確かで豊かなものとする中で、「学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を主体的に結び付ける学びが実現され、学校で学ぶ内容が、生きて働く力として育まれる」とされている。（小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編）

しかし、本研究員の所属校における児童の実態について協議する中で、以下のような問題点が挙げられた。

- 1 目的や場面、状況等を意識してコミュニケーションを図ることができていない。
- 2 既習事項を十分に活用できておらず、学習の積み重ねを単元終末の言語活動で十分に発揮できていない。
- 3 1 及び 2 から、伝えることの必要性を感じながら主体的にコミュニケーションに取り組むことができず、英語で伝え合うことができた満足感や達成感を味わっていない。

そこで本研究では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にし、既習事項も活用しながら自分の思いを英語で伝え合う活動を行う中で、児童が相手に対する理解を深め、満足感や達成感を味わうことができるようにすることを目指し、研究主題を「主体的にコミュニケーションに取り組む児童の育成」とした。

II 研究の視点

I で記載した課題を解決するため、前述の外国語科の目標に加え、「主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めること」（小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編 平成 29 年 7 月）や、「各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成す

べき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること」(小学校学習指導要領外国語活動・外国語 平成 29 年 3 月)が求められていることを踏まえ指導方法を検討し、3つの研究の視点を設定した。

<研究の視点1> コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定の工夫

児童の発達の段階や興味・関心に合った目的や場面、状況等を明確に設定することで、児童が英語で学ぶことの意味を理解し、英語を使おうとする意欲を高め、主体的にコミュニケーションに取り組むことを促す。

<研究の視点2> 既習事項の定着と活用に向けた指導の工夫

実際のコミュニケーションの中で既習事項を繰り返し活用させることで既習事項の定着を図る。その中で児童のつまづきを把握し、言語活動を通して必要な既習表現に触れる機会を設定したり、他者の多様な考えや表現を共有したりすることで、伝える内容や表現を改善させる指導を行う。

<研究の視点3> 学習の見通しと振り返りを促す指導の工夫

単元目標を児童に明確に示し、児童と共有することで、学習の見通しをもたせる。また、各時間の成果と課題を把握できるような振り返りシートを作成し、振り返りの機会を繰り返し設ける。振り返りを通して、自己の成長に気付かせたり、自己の課題を把握させたりすることで、次の学びにつなげ、児童が自信をもって主体的にコミュニケーションに取り組めるようにする。

Ⅲ 研究仮説

コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定を工夫し、既習事項の定着と活用に向けた指導を行うとともに、児童に学習の見通しと振り返りを促す指導の工夫を行うことで、児童が主体的にコミュニケーションに取り組むことができるだろう。

Ⅳ 研究方法

1 課題の整理と指導方法の検討

本研究では、Ⅰの1～3の課題を明確にするとともに、小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編などの研究を基に研究主題「主体的にコミュニケーションに取り組む児童の育成」を設定し、課題を解決するための指導方法として上記1～3の研究の視点を定めた。

2 授業実践

研究の視点に基づき授業を行い、研究の視点が主題に迫るための有効な手だてとなっていたかを児童の学習状況等を基に検証した。

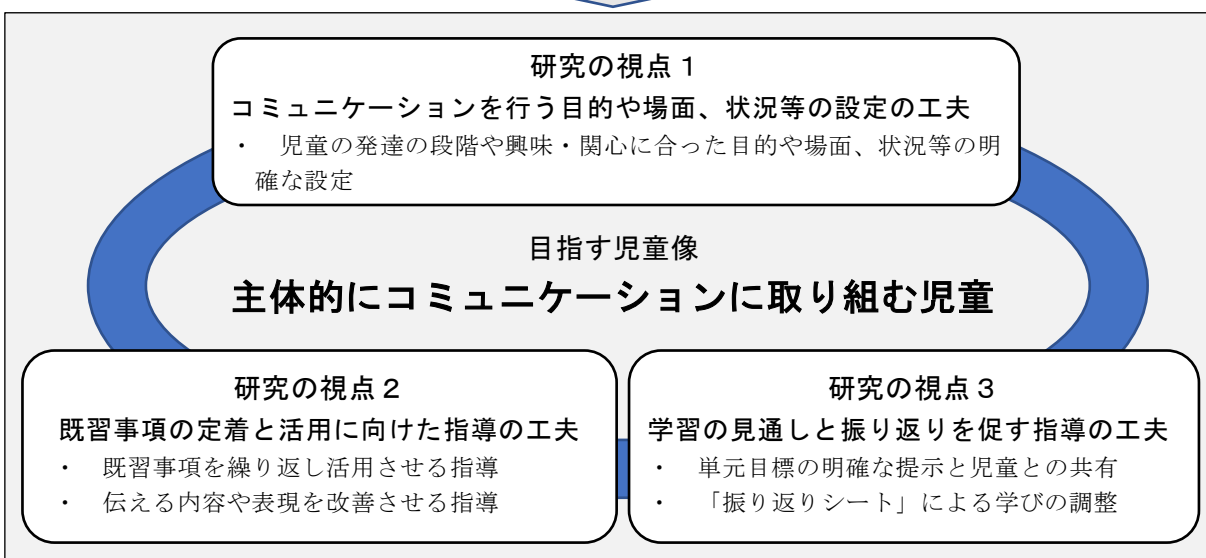
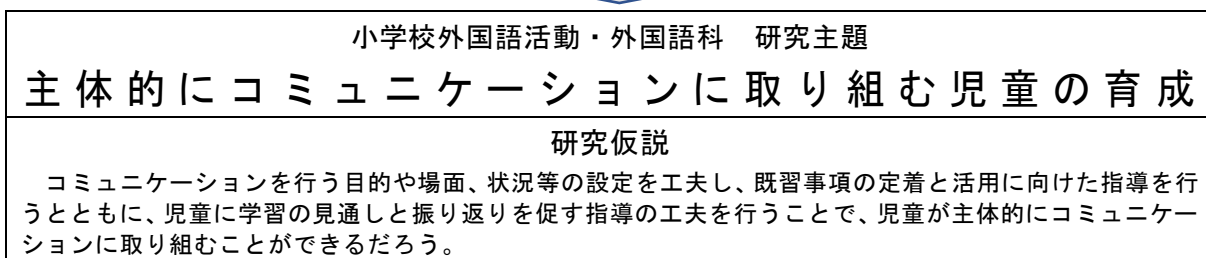
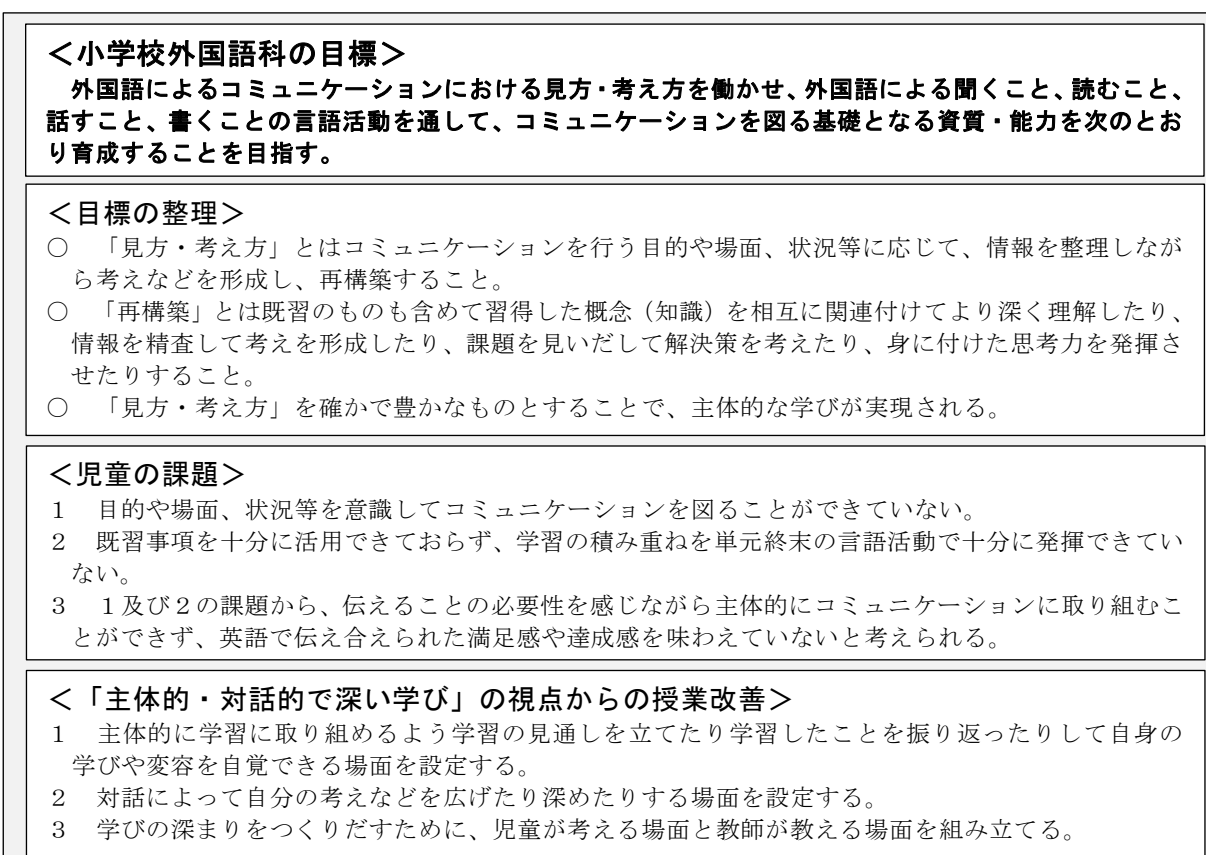
検証授業1 第4学年 Unit4 What time is it?

検証授業2 第4学年 Unit5 Do you have a pen?

検証授業3 第6学年 Unit6 This is my town.

検証授業4 第6学年 Unit8 My Future, My Dream

V 研究構想図



VI 研究内容

1 実践内容

各視点「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定の工夫」、「既習事項の定着と活用に向けた指導の工夫」、「学習の見通しと振り返りを促す指導の工夫」に基づく実践内容は、それぞれ次のとおりである。

<研究の視点1> コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定の工夫

研究の視点1では、児童の発達の段階や興味・関心に合った目的や場面、状況等を明確に設定し、児童と共有することで、児童が主体的にコミュニケーションを図れるようにした。

外国語活動の授業では、中学年の発達の段階を考慮し、伝える相手を学級の友達とし、例えば、児童一人一人に自分の好きな時間や自分の大切な物について発表させるなど、主に自分のことや身近なことを題材とした活動を設定した。活動を通して友達の発表を聞くことで、自分との共通点や相違点を探しながら、友達の新たな一面を知る喜びを感じられると考え、コミュニケーションの目的を「みんなのことをより知るため」などとした。

【表1 コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定の例】

学年	第4学年		第6学年	
単元名	What time is it? (検証授業1参照)	Do you have a pen? (検証授業2参照)	This is my town. (検証授業3参照)	My Future, My Dream (検証授業4参照)
目的	みんなの好きな時間とその理由を知るため	みんなの大切な物とその理由を知るため	ALTに自分たちの町を観光してもらうため	メッセージに応えるため
場面、状況等	学級の友達に自分の好きな時間を紹介する。	学級の友達に自分の大切なものを紹介する。	ALTに自分たちの町の魅力について紹介する。	中学校の英語科教員に中学校生活への期待や夢などを伝える。

<研究の視点2> 既習事項の定着と活用に向けた指導の工夫

研究の視点2では、既習事項を繰り返し活用させる指導と伝える内容や表現を改善させる指導を工夫することで、既習事項の定着と活用が図れるようにした。

具体的には、ペアでのやり取りを何度も行い、その中で児童に既習表現を繰り返し活用させるとともに、中間指導では、実際の児童のやり取りを紹介したり、そのよさを価値付けたりしていくようにした。また、児童の伝える内容や表現を改善させるため、児童に使わせたい表現を教師がモデルで示したり、中間指導において、内容や表現の改善を促す発問を行うようにした。

【表2 視点2に基づく指導内容と指導の目的に応じた中間指導の際の教師の発問例】

指導内容	指導の目的に応じた中間指導の際の発問例
し既習事項を繰り返して指導	(1) 語彙を増やす。 ・ 言いたかったけど言えなかった言葉や表現はありますか。 ・ 相手の話を聞いて、分からなかった言葉や表現はありますか。
	(2) 既習表現の活用を促す。 ・ 友達の表現でまねしたいと思った表現はありますか。 ・ 今までに学んだ表現を振り返って、自分の気持ちを伝えるために使えるような言い方はありますか。

改善させ表 せる現 指 導	(3) より伝わるように工夫を促す。 <ul style="list-style-type: none"> より伝わるようにするために、どんな工夫が考えられますか。 相手に問いかけたり順番を変えたりすると、より気持ちが伝わりますね。
	(4) スピーチの再構築を促す。(高学年のみ) <ul style="list-style-type: none"> 伝える相手に対して、どんな情報を付け加えたらよいと思いますか。 自分の伝える内容を振り返って、相手に向けて、どんなことを中心に伝えたいかもう一度考えましょう。

< 研究の視点 3 > 学習の見通しと振り返りを促す指導の工夫

研究の視点 3 では、単元の目標を明確に示し、児童と共有した。また、「振り返りシート」を工夫し、振り返りの視点を具体的に与えるとともに、自分の考えの広がりや変化の過程が分かるようにした。これらを通じて、児童が自身の成長に気付き、自信をもってコミュニケーションに取り組めるようにした。

外国語活動の授業では、児童が自分の現状を客観的に見たり、次時への自己の課題を把握して毎時間の学習に取り組んだりできるように、ワークシートを一単元で 1 枚にまとめた。外国語の授業では、児童と共有した単元の流れや学習到達目標をいつでも確認できるようにしたり、授業の感想や次時へのめあての記録したりするために、一人 1 台端末を活用した。

なお、「振り返りシート」や一人 1 台端末の活用の具体は、「2 検証授業」で紹介している。

2 検証授業

各検証授業では、3つの研究の視点に基づく取組を実践し、その効果を検証した。各授業における取組と研究の視点との関わりは、それぞれの検証授業において「本時の展開」の「研究の視点とのつながり」に示している。

【検証授業 1 (中学年)】

(1) 単元名 第 4 学年 Unit 4 What time is it?

(2) 単元の目標

学校の 1 日に入りたい時間・時刻や理由を紹介し、相手の考えを知るために、好きな時間・時刻や理由について尋ねたり、相手に伝わるように工夫しながら話したりする。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
時刻や日課を表す言い方や What time is it? It's ~. It's ○○ time. などの表現を用いて、話すことに慣れ親しんでいる。	自分の好きな時間と理由について、相手に伝わるように工夫しながら話している。	自分の好きな時間と理由について、相手に伝わるように工夫しながら話そうとしている。

(4) 学習の過程

第 1 時	時刻や日課の言い方に慣れ親しむとともに、学校の 1 日に入りたい時間を考える。
第 2 時	何時何分を尋ねたり、伝えたりする言い方に慣れ親しむとともに、学校の 1 日に入りたい時間を考え、共有する。
第 3 時	1 日の生活の中で好きな時間・時刻や理由を伝え合う。
第 4 時	学校の 1 日に入りたい時間や時刻、理由を伝え合う。

(5) 本時 (第 4 時 / 4 時間)

ア 本時の目標

学校の 1 日に入りたい時間や時刻、理由を伝え合う。

イ 本時の展開

	○学習活動	・指導上の留意点 ◎評価規準	研究の視点とのつながり
導入	○挨拶 ○めあての確認 学校の1日に入りたい時間と理由を伝え合おう	・学級の友達に自分の好きな時間を紹介し合う活動を通して、互いの新たな一面を見付ける活動とする。	視点1（目的や場面、状況等）
展開	○Teacher's Talk ○ペアでのやり取り1 （ペアを変えて8回繰り返し返す。） What time is it? It's ○○ time. / It's ~ . I like △△. Do you like ○○ time? Yes, I do. / No, I don't. ○ペアでのやり取り2 （自由にペアを作り、話し合いを繰り返し行う。） ○全体共有	・ALT と JTE とのやり取りを通じて活動の仕方を理解させる。 ・中間指導において、コミュニケーションの態度を意識させる発問、既習表現の活用を促す発問、より伝わるように工夫を促す発問等を行い、表現の定着や改善を図る。 ◎学校の1日に入りたい時間・時刻や理由について、相手に伝わるように工夫しながら話している。 ・自分が考えた時間を書いた絵カードを黒板に貼り、全体で共有する。	視点2（既習事項の定着と活用）
まとめ	○振り返り	・本時で工夫した伝え方や単元を通してできるようになったことなどの視点を与え、振り返りをさせる。	視点3（学習の見通しと振り返り）

(6) 成果と課題

○ 視点1（目的や場面、状況等）

学級の友達に自分の好きな時間を紹介し合う活動を通して、互いの好きな時間を知ることを目的としたことで、意欲的に多くの友達と交流する児童の姿が見られ、「伝えたい」、「聞きたい」という意欲を高めることができたと考えられる。また、「自分と同じ人がいた。」、「友達の好きなことを知れてよかった。」などの発言が見られ、児童の興味・関心に合った設定であったことが分かる。

○ 視点2（既習事項の定着と活用）

ペアでのやり取りを繰り返し行う中で、中間指導においてコミュニケーションの態度を意識させる発問や既習表現の活用を促す発問などを活用することで多くの児童が段々とスムーズに話せるようになってきたり、少しずつはっきりと伝えたりする姿が見られた。しかし、時刻の表現については、60までの数が児童にとってつまづきやすい事項であり、定着に課題が見られ、より丁寧に指導していく必要があった。

○ 視点3（学習の見通しと振り返り）

振り返りシートに、「時刻を英語で尋ねることができたか。」、「何の時間を英語で言えたか。」など具体的な視点を与え、毎時間4段階で記録させたことで、学習状況や変容を見取ることができた。

しかし、各時間の振り返りが「○○が言えるようになって嬉しかった。」、「○○さんの好きな時間が面白かった。」といった感想に留まり、学習への見通しを十分に意識させることができず、「次の目標」につながる振り返りにすることができなかった。

【検証授業 2 (中学年)】

(1) 単元名 第4学年 Unit5 Do you have a pen?

(2) 単元の目標

学級の友達に自分の大切な物を紹介するために、自分が持っている物について相手に伝わるように工夫しながら話す。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の大切な物について、I have / don't have～. Do you have～? などを用いて話すことに慣れ親しんでいる。	自分の大切な物について、その理由や思いが相手に伝わるように工夫しながら話している。	自分の大切な物について、その理由や思いが相手に伝わるように工夫しながら話そうとしている。

(4) 学習の過程

第1時	文房具や持っている物を伝える表現に慣れ親しむ。
第2時	持っているか尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。
第3時	友達とのやり取りを通して、自分の紹介したい大切な物について考える。
第4時	自分の大切な物を友達と伝え合いながら、相手に伝わるように表現を工夫して話す。
第5時	自分の大切な物について、相手に伝わるように工夫しながら発表する。

(5) 本時 (第4時 / 5時間)

ア 本時の目標

自分の大切な物を友達と伝え合いながら、相手に伝わるように表現を工夫して話す。

イ 本時の展開

	○学習活動	・指導上の留意点 ◎評価規準	研究の視点とのつながり
導入	○挨拶 ○Talk Time Do you have a long red pencil? Yes, I do. I have a long red pencil. / No, I don't. I don't have a long red pencil.	・本時に生かせる内容を設定する。	
展開	○めあての確認 大切な物について、相手に伝わるように表現を工夫して話そう。	・学級の友達に自分の大切なものを紹介する活動を通して、互いの大切な物を知る活動とする。 ・教師が短いモデルスピーチを行い、情報が少ないと伝わらないことに気付かせる。どのような情報が伝えられるかを全体で共有し、ペアでのやり取りに生かせるようにする。	視点1 (目的や場面、状況等) 視点2 (既習事項の定着と活用)
	○ペアでのやり取り1 (ペアを替え繰り返す。) ○Teacher's Talk 2 Hello. I have a ball. I like white. Do you like white? I have a white ball. Thank you.		
	○ペアでのやり取り2 (ペアを変えて4回繰り返す。) ○Teacher's Talk 3 Hello. I have a ball. I don't have a small balance ball. But, I have a big white balance ball. I like stretching. Thank you.	・コミュニケーションの態度を意識させる発問、既習表現の活用を促す発問、より伝わるように工夫を促す発問等を行う。	
	○ペアでのやり取り3 (ペアを変えて4回繰り返す。)	◎大切な物について、相手に伝わるように表現を工夫して話そうとしている。	
まとめ	○振り返り	・工夫した伝え方や次の学習に頑張りたいことなどの視点を与え、振り返らせる。	視点3 (学習の見通しと振り返り)

(6) 振り返りシート

検証授業1の課題を受け、振り返りシートの改善を図った。単元の目標と各時間のめあてを1枚の振り返りシートにまとめることで、児童が学習の見通しをもち、毎時間の学習を振り返って次の目標を意識できるようにした。また、一人一人の学習の気づきやつまづきなどを把握するために記述欄を設けた。

(7) 成果と課題

○ 視点1（目的や場面、状況等）

「大切な物」を題材にしたことで、児童のより詳しく伝えたいという意欲を高めることができた。振り返りシートには、「友達の良いものを知ることができて楽しかった。」などの記述が見られ、児童の興味・関心に合った設定であったことが分かる。

○ 視点2（既習事項の定着と活用）

中間指導において教師がモデルを示すことで、大切な物の大きさ、色、長さ、数を伝えたり、「I like～」を使って好きな理由を伝えたりするなど既習事項を活用して表現の幅を少しずつ広げていくことができた。

しかし、新出事項の「I have～」と「Do you have ~?」の表現を十分に活用できていない児童が一部で見られた。児童の学習の状況を見取りながら、帯活動等で定着が十分でない「have」の表現に触れる機会を取り入れていくなどの工夫が必要である。

○ 視点3（学習の見通しと振り返り）

振り返りシートでは、単元の目標と各時間のつながりが分かるよう、単元のゴール、各時間のめあてを振り返りシートにまとめて記載した結果、前時と比較しながら「英語で言えることが増えてきた。」「次は質問の文を入れていきたい。」など、次時で頑張りたいことを記す児童が見られるようになった。

【検証授業3（高学年）】

(1) 単元名 第6学年 Unit6 This is my town.

(2) 単元の目標

ALT に自分たちが住む町について知ってもらうために、紹介したい場所と理由、施設やできることなどについて、相手に伝わるように、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちを発表することができる。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
施設・建物を表す語句や We (don't) have ~. You can enjoy / see ~. の表現について理解するとともに、自分の考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。	ALT に自分たちが住む町について知ってもらうために、自分たちが住む町について相手に伝わるように、自分の考えや気持ちなどを話している。	ALT に自分たちが住む町について知ってもらうために、自分たちが住む町について相手に伝わるように、自分の考えや気持ちなどを話そうとしている。

(4) 学習の過程

第1時	施設や自分たちが住む町でできることについての表現を理解し、ペアで町の施設について話す。
第2時	自分たちが住む町にある施設とない施設を整理し、町の施設やあったらよいと思う施設について話す。
第3時	自分たちが住む町の好きな場所やよいところを学級で共有し、ペアで町のよさと理由を話す。
第4時	スピーチメモを作成し、自分たちが住む町の紹介したい場所と理由、施設やできることなどについて、ペアで伝え合う。
第5時	スピーチをよりよくするためにどのような工夫ができるか考えて学級で共有し、スピーチメモを基に構成や内容を見直した後、ペアで町について紹介し合う。
第6時	学級全体の前で発表し、ALT に紹介する際によりよい発表になるように、アドバイスし合う。
第7時	各グループに分かれ、ALT に自分たちが住む町について紹介する。

(5) 本時（第5時／7時間）

ア 本時の目標

自分たちが住む町の紹介したい場所と理由などについて、相手に伝わるように、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちを話すことができる。

イ 本時の展開

	○学習活動	・指導上の留意点 ◎評価規準	研究の視点とのつながり
導入	○挨拶 ○Small Talk ○めあての確認	・テーマに合わせペアで1分間話させる。 ・前時までの振り返りを紹介する。	
	自分たちが住む町の紹介したい場所や理由について、工夫しながら伝えよう。		視点1（目的や場面、状況等）
展開	○Teacher's Talk 1 I like Mitaka very much. We have a Chinese restaurant. You can eat Negisoba and Shumai. It's delicious, and I like Chinese food very much. Do you know this restaurant?	・ICTを活用して、視覚支援を行う。	
	○ペアでのやり取り1 ○ペアでのやり取り2	・新出表現が使えたかを確認する発問、語彙を増やす発問、既習表現を促す発問等を行う。	視点2（既習事項の定着と活用）

	○Teacher's Talk 2	・教師のモデルスピーチは2種類用意し、気付きや感想について問いかける。	
	スピーチA : Welcome to Mitaka. I like anime movies. Do you like anime movies? We have an anime museum. You can see the cat bus. It's big and cute. I like cute characters very much.		
	スピーチB : Welcome to Mitaka. We have an anime museum. You can see the cat bus. It's big and cute. I like cute characters very much. I like anime movies. Do you like anime movies?		
	○スピーチの改善	<ul style="list-style-type: none"> 一人1台端末を活用する。 既習表現の活用を促す発問を行う。 スピーチの再構築を促す発問を行う。 	2つのスピーチを比較することで、語順の違いによって受ける印象の違いなどを考えさせ、町の紹介によりよいスピーチはどちらかを考えさせた。
	【視点2 既習表現の活用】 ・言いたかったけど言えなかった言葉や表現はあるか。 ・友達の表現でまねしたいと思った表現はあるか。	【視点2 スピーチの再構築】 ・どんな情報を付け加えたらよいか。 ・何を中心に伝えたいか。	
	○ペアでのやり取り 3	<ul style="list-style-type: none"> スピーチをどのように改善したか、児童の工夫について問いかける。 改善後にペアでのやり取りを行う。 ◎自分たちが住む町の紹介したい場所と理由、施設やできることなどについて、相手に伝わるように、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちを話している。 	
まとめ	○振り返り	・次の学習につながるように、意識してできたこと、改善した点など、具体的に視点を与え、振り返りをさせる。	視点3 (学習の見通しと振り返り)

(6) 振り返りシート ※斜字体の部分は、児童が記入した内容の例

【視点3】
児童の実態に合わせて設定しためあてを共有することで、学習の見通しをもたせた。

【視点3】
単元の流れや学習到達目標を基に、授業の感想や次の目標を記録した。

めあて	できるようになった日	次の学習で頑張りたいこと 言えるようになりたいこと	今日の振り返り (友達の表現でよかったところ、できるようになったこと、気付いたこと)
町の紹介の話を聞いて、内容を理解することができる。	9月13日	店の紹介を分かりやすくする英語を確認する。	先生の発表が分かりやすかったから、紹介する時にまねして、自分の英語力を高めたい。
We have ~.を使って町にあるものを紹介することができる。	9月15日	まだうまく言えない単語があるのでがんばりたい。	先生の発表は、結構まねできたと思うので、友達のまねもして、会話を広げていきたい。
町にある施設や場所の名前を5種類以上言うことができる。	9月16日	もっと会話を広げられるようになりたい。	○○さんが、一つのことを詳しく言っていたのですごいと思った。
You can ~.を使って町でできることを紹介することができる。	9月21日	分からない英語は習った単語をつなげて伝えてみた。	○○さんが、すぐに英語が出てこなくても他の単語で諦めないで伝えようとしていてよかった。
町の紹介に I like ~.などを使って自分の考えや気持ちを伝えることができる。	9月22日	次は、質問を入れる。	○○さんがたくさん質問して、その度に、反応したり繰り返したりしていてよかった。まねして会話を広げたい。
ALT に自分の考えや気持ち、質問などを加えながら、工夫して紹介することができる。	10月5日	相手にはっきりと伝わるようにする。	友達の発表を聞いて、声をはっきりしていて分かりやすかったので、友達のいいところをまねする。
単元の振り返り	ALTの先生と会話ができるようになって、余った時間に質問できた。これからも練習して、○○さんのように、ALTの先生や友達と楽しく会話をしていきたい。		

(7) 成果と課題

○ 視点1 (目的や場面、状況等)

単元終末に、ALT に自分の考えや思いを伝える場面を設定したことで、ゴールが明確になり、児童は意欲的に取り組むとともに、目標とした内容を英語で伝えることができた。

○ 視点2（既習事項の定着と活用）

ペアでのやり取りを繰り返す中で、疑問文を入れたり、話す順を変えたりするなど定着した内容を活用する児童が見られるようになった。中間指導として行った発問は、内容や表現を改善させる手だてとして有効であった。

しかし、ペアでのやり取りの際に、片方の児童の時間が長くなってしまったり、短くなってしまったりしたことで、既習事項を活用したり、会話を広げたりする機会を均等に与えることができていなかった。

○ 視点3（学習の見通しと振り返り）

振り返りでは、学習を進めていくごとに「まだ言えない単語や表現があるので頑張りたい。」「会話を広げられるようにしたい。」と、より高い目標へ主体的に取り組もうとする姿への変容が見られた。

【検証授業4（高学年）】

(1) 単元名 第6学年 Unit8 My Future, My Dream

(2) 単元の目標

中学校の英語科教員に自分のことを知ってもらうために、中学校生活や将来の夢などについて、相手に伝わるように、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちを発表することができる。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学校生活や将来の夢を表す表現 I want to join / enjoy / be～. 及びその関連語句・表現などについて理解するとともに、自分の考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。	中学校の英語科教員に自分のことを知ってもらうために、中学校生活や将来の夢などについて、相手に伝わるように、自分の考えや気持ちなどを話している。	中学校の英語科教員に自分のことを知ってもらうために、中学校生活や将来の夢などについて、相手に伝わるように、自分の考えや気持ちなどを話そうとしている。

(4) 学習の過程

第1時	中学校生活について、友達とのやり取りを通して、入りたい部活や理由について尋ねたり、答えたりする。
第2時	中学校生活について、友達とのやり取りを通して、楽しみたい行事や理由を尋ねたり、答えたりする。
第3時	中学校生活について、友達とのやり取りを通して、頑張りたい教科や理由を尋ねたり、答えたりする。
第4時	将来の夢について、友達とのやり取りを通して、どんな職業に就きたいか、どんな人になりたいか、また、その理由を尋ねたり答えたりする。
第5時	中学校生活や将来の夢について、相手に伝わるように、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちを話す。
第6時	中学校生活や将来の夢について、相手に伝わるように工夫しながら友達に自分の期待や希望を話す。
第7時	中学校生活や将来の夢について、相手に伝わるように工夫しながら中学校の英語科教員に自分の期待や希望を話す。

(5) 本時（第5時／7時間）

ア 本時の目標

中学校生活や将来の夢について、相手に伝わるように、伝えようとする内容を整理した上で、自分の期待や希望を話すことができる。

イ 本時の展開

	○学習活動	・指導上の留意点 ◎評価規準	研究の視点とのつながり
導入	○挨拶 ○めあての確認	・中学校の教員の写真を掲示する。 ・前時までの振り返りを掲示する。	
	中学校の英語の先生への発表に向けて、中学校生活での期待や希望について、相手に伝わるように工夫しながら友達と伝え合おう。		
	○Teacher's Talk 1	・中学校生活への期待や夢などを、中学校の教員へ伝えることが目的であることを共有する。 ・教師が ICT を活用し、モデルスピーチを見せる。	視点1（目的や場面、状況等） 視点2（既習事項の定着と活用）
Hello. I want to join the photography club because I like taking photos. I want to enjoy the school festival because I want to eat yakisoba. I want to be like Mr. ○○. He is a good teacher. He really loves students. He is always thinking about you. He is very kind. He can play baseball well but I am not good at baseball. I want to play baseball with him.			
展開	○ペアでのやり取り 1 ○ペアでのやり取り 2 ○Teacher's Talk 2	・1回の話し合い活動は2分間とする。 ・新出表現が使えているかを確認する発問、語彙を増やす発問、既習表現の活用を促す発問を行う。 ・教師のモデルスピーチは2種類用意し、気付きや感想について問いかける。	視点2（既習事項の定着と活用）
	スピーチB：I want to join the table tennis team because I can play table tennis. Can you play table tennis? I went to Kurumayama. It was so fun. I want to enjoy school trip. I want to study English because I want to talk with many people from other countries. I want to be a doctor because I want to help people.		
	スピーチA：I want to join the table tennis team because I can play table tennis. My hero is ○○. He is a Olympic athlete. Do you know any Olympic athletes? I want to be an Olympic athlete. My treasure is my table tennis racket. I always play table tennis on Mondays. Do you like table tennis? Let's play table tennis.		
	○スピーチの改善	・一人1台端末を活用する。 ・一人1台端末を活用する。 既習表現の活用を促す発問を行う。 ・スピーチの再構築を促す発問を行う。	【視点2 既習表現の活用】 ・言いたかったけど言えなかった言葉や表現はあるか。 ・友達の表現でまねしたいと思った表現はあるか。
【視点2 スピーチの再構築】 ・どんな情報を付け加えたらよいか。 ・何を中心に伝えたいか。			スピーチAは、卓球に関して一つの事柄を詳しく説明している。スピーチBは、卓球の他に小学校での思い出や夢について複数の事柄を話している。話し手の伝えたい内容によって、両方によい点があることに気付かせる。
	○ペアでのやり取り 3 ○ペアでのやり取り 4	・改善後にペアで話し合い活動を行う。 ◎中学校生活や将来の夢について、相手に伝わるように、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを話している。	
まとめ	○振り返り	・次の学習につながるように、ペアで話し合い活動を行う中で工夫した点について振り返りをさせる。	視点3（学習の見通しと振り返り）

(6) 振り返りシート

授業の振り返りの時間に一人1台端末を用いてそれぞれの児童が記入した「次の目標」と「学習感想」を、次時の導入場面で児童が確認する機会をつくり、見通しをもって授業に取り組むことができるようにした。また、これらの振り返りを、一人1台端末を用いて全体で共有することで、自分にはない改善の視点への気づきを促した。

学習感想
Why?やniceなどを積極的に言えるようになりました。今回は、becauseなども言うように頑張りました。

次の目標
次回は、もう少し理由を上手くまとめて、言えるようになりたいです。

学習感想
今日は、理由を上手く言えるように頑張りました。先生が詳しく教えてくれたので、分かりやすかったです。

次の目標
次回は、理由をもう少し上手く言えるようになって、詳しく言えるようになりたいです。

毎時間の導入時に前時を振り返り、児童が自分の次の目標をもつことで、主体的な取組につながった。

(7) 成果と課題

○ 視点1（目的や場面、状況等）

中学校の教員に向けて近い未来に経験することを話す設定にしたことで、自分のことを詳しく伝えようという児童の意欲を高め、主体的な取組を促すことができた。

○ 視点2（既習事項の定着と活用）

教師が卓球に関して一つの事柄を詳しく説明しているスピーチと、卓球の他に小学校での思い出や夢について複数の事柄を話しているスピーチの2種類のモデルを比較させたことで、児童はそれぞれのスピーチのよさに気付くことができた。児童が自分の伝えたいことがより伝わるスピーチとなるように改善するための手だてとして有効であった。

しかし、ペアでのやり取りの際に、「join」と「enjoy」の区別ができていなかったり、「I want to be a〜」の「be a」を付け忘れてしまったりするなど、指導した内容の定着が十分でない児童が見られた。全体共有、机間指導の中でより丁寧に指導し、自然な定着を促していく必要がある。

○ 視点3（学習の見通しと振り返り）

本時の振り返りや次時のめあてを全体で共有し、自分と異なる視点や学び合いのよさに気付かせることができた。単元の最初は「新出表現を覚えられた。」などの学習の到達度を振り返る児童が多かったが、教師が友達のよいところを書いている児童を紹介し続けることで、表現の工夫や伝え方のよさを生かそうとする記述が多く見られるようになり、次の機会の主体的なコミュニケーションにつながった。

VII 研究の成果と課題

本研究では3つの視点に基づいて研究を深め、授業実践を行うことで、研究テーマである「主体的にコミュニケーションに取り組む児童の育成」につなげることができた。一方でそれぞれの視点において課題も明らかになった。以下、その内容を述べる。

1 成果

(1) <研究の視点1> コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定の工夫

検証授業前と検証授業後のワークシートの振り返りから、「新しい学習に入った時に、何を学習するのか分かりますか。」という質問に対し、「分かる」と肯定的な回答をした児童の割合が中学年で27.0%から38.0%と11.0ポイント、高学年で47.2%から61.8%と14.6ポイント増加した。また、「その時間のめあてを意識して取り組んでいますか。」という質問に対しては、「分かる」と肯定的な回答をした児童の割合が中学年で76.0%から87.0%と11.0ポイント、高学年で36.1%から50.0%と13.9ポイント増加した。

このことから、児童の発達の段階や興味・関心に合った目的や場面、状況等を明確に設定して児童と共有した本研究の取組は、児童が英語で学ぶ意味を理解し、必要感をもって語彙や表現の習得に向かう姿勢、また、「自分のことを伝えたい」、「相手のことを知りたい。」など、コミュニケーションへの主体的・意欲的な態度の育成につながったと考えられる。

(2) <研究の視点2> 既習事項の定着と活用に向けた指導の工夫

児童が繰り返しペアでのやり取りを行う中で、繰り返し表現に触れ、少しずつ自信をもって表現できるようになった。また、中間指導を通じて教師が児童のよい表現の工夫を取り上げたり、教師がモデルを示すことで、児童が表現の幅を広げ自分の伝えたい表現や語句を選び、伝える内容を改善していく様子が見られた。高学年では、一人1台端末を活用して既習事項の一覧を資料として共有したこと（以下の図1参照）が、既習事項の定着と活用に有効な手だてとなった。また、一人1台端末を活用したことで、容易に語順を変えたり、表現を追加したりすることができるとともに、児童がどのように内容を再構築していったのかを見取ることができた（次ページ図2参照）。

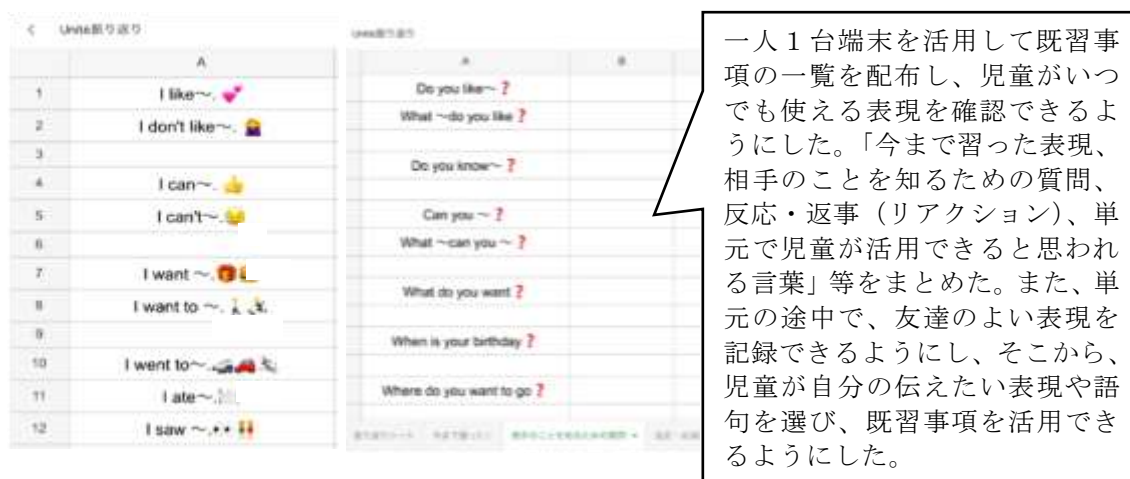


図1 【高学年における一人1台端末の活用～既習事項の定着に向けて～】

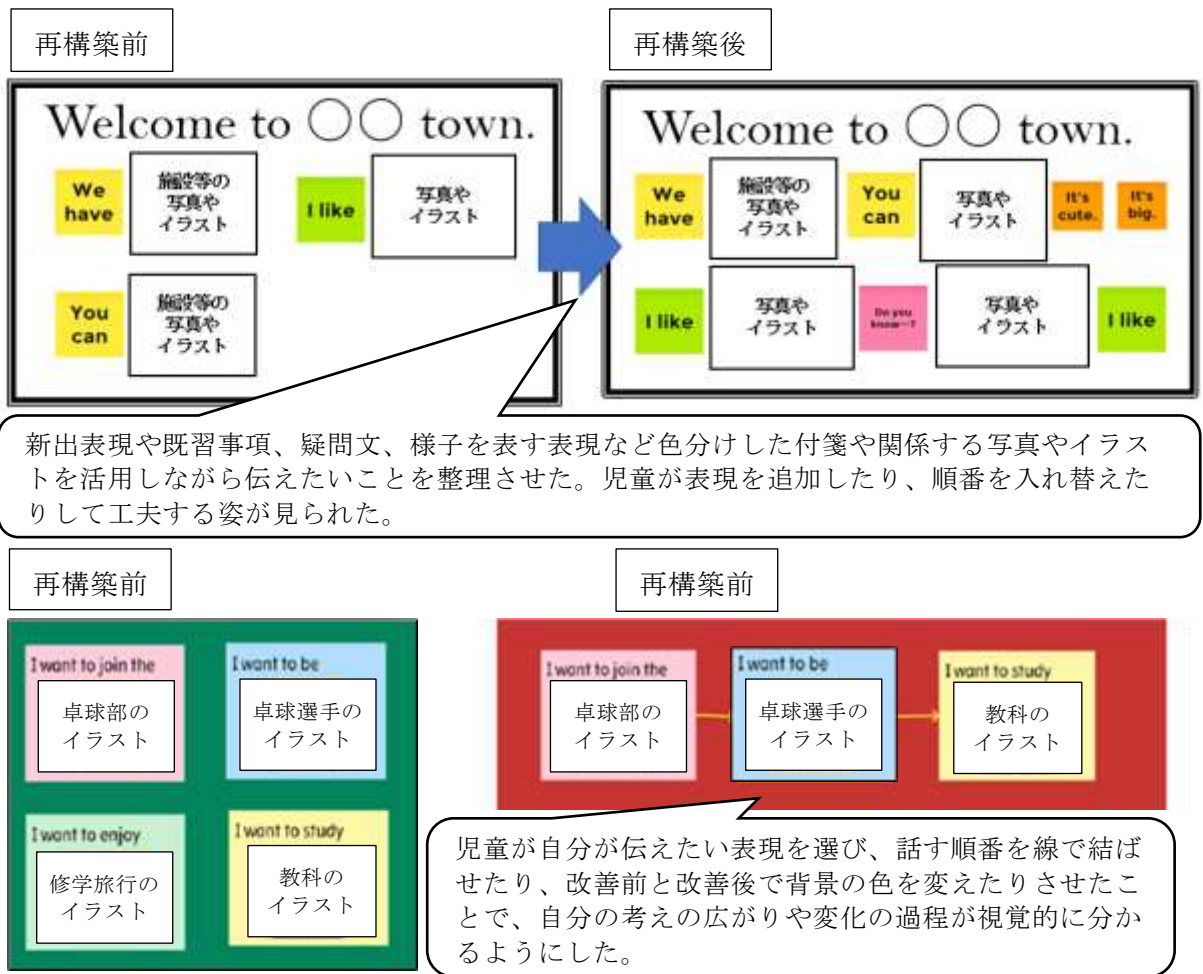


図2 【高学年における一人1台端末の活用～表現内容の改善に向けて～】

検証授業前と検証授業後のワークシートの振り返りから、「自分と友達の表現や考えを比べることはありますか。」という質問に対し、「ある」と肯定的な回答をした児童の割合が中学年で55.0%から69.0%と14.0%、高学年で36.1%から67.6%と31.5%増加した。また、「よりよくしようと工夫を加えながら話すことを変えていますか。』などと思うことはありますか。」という質問に対しては、「ある」と肯定的な回答をした児童の割合が中学年で28.0%から59.0%と31.0%、高学年で30.6%から44.1%と13.5%増加した。

これらのことから、既習事項の活用と定着を促すペアでのやり取りと中間指導は、既習事項の定着にとどまらず、学級の仲間の表現や考えを参考にしながら、児童が表現する内容の改善を図っていくことにつながったと考えられる。

(3) <研究の視点3>学習の見通しと振り返りを促す指導の工夫

検証授業前と検証授業後のワークシートの振り返りから、『今日は○○ができた』かどうかを振り返っていますか。」という質問に対し、「している」と肯定的な回答をした児童の割合が中学年で68.0%から69.0%と1.0%、高学年で30.6%から44.1%と13.5%増加した。また、『～をできるようにしよう』など次の学習に向けて振り返っていますか。」という質問に対しては、「している」と肯定的な回答をした児童の割合が中学年で59.0%から72.0%と13.0%、高学年で27.8%から44.1%と16.3%増加した。また、振り返りシートの記述には

「〇〇がスムーズに言えるようになった。」、「次は〇〇について言えるようになりたい。」等の内容が多く見られた。

このことから、「振り返りシート」の活用を通じて、学習を振り返り次の課題をもつという経験の積み重ねは、児童が自己の成長や課題に気付くことにつながり、取組として有効だったと考えられる。また、導入時に様々な児童の前時の振り返りを紹介したり、学び合いや振り返りの視点を具体的に示したりすることで、児童が目標を意識しながら学習に取り組むことができるようになった。

2 課題

視点2の取組において、児童は意欲的に既習事項を活用し、改善を図っていくことができたが、一部の児童に、単語の発音や、単語の意味の理解など、既習事項の定着に課題が見られた。今後、個別の指導が必要な児童への声掛けや支援等、既習事項の定着に向けて指導をより丁寧に行っていく必要があると考える。デジタル教科書の音声読み上げ機能を効果的に活用したり、教師のモデルや Small Talk など様々なインプットの機会を設定したりしていくことが必要であると考えられる。児童一人一人の学習状況の把握についても一人1台端末を効果的に活用できるように教材開発をしていく。

視点3では、中学年において、高学年の取組のように一人1台端末を活用し、自己の成長を把握するとともに個々の気付き等を全体で共有し、より多くの児童が次への目標をもつことができるようにしていく必要がある。

3 まとめ

研究を進めていく中で、教師が児童に示すモデル (Teacher's Talk) には様々な効果があることが分かった。活動のねらいに合わせて、どの学習場面でどのような内容を教師のモデル (Teacher's Talk) として示すかを吟味し、意図をもって行う必要があることが分かった。

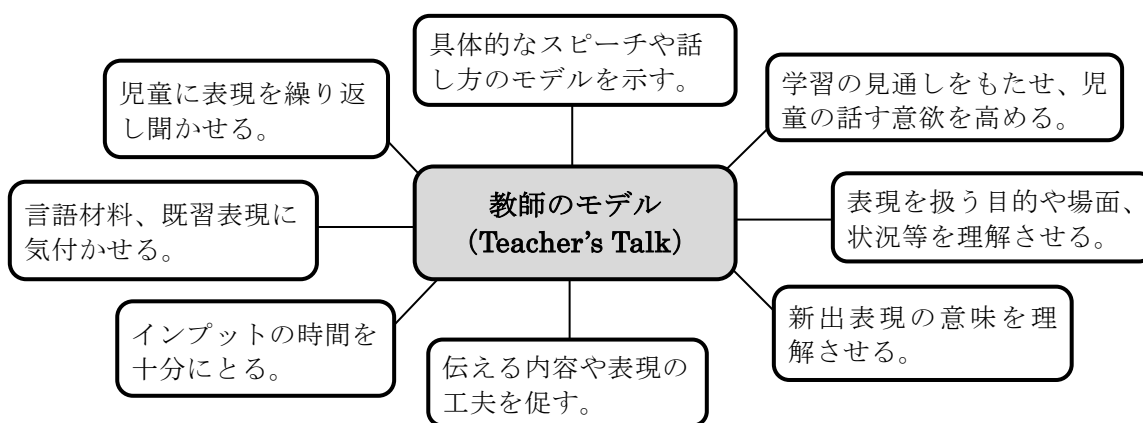


図3 【教師のモデル (Teacher's Talk) の意図】

本研究を通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定を工夫し、既習事項の定着と活用に向けた指導を行うとともに、児童に学習の見通しと振り返りを促す指導の工夫を行うことで、児童が主体的にコミュニケーションに取り組むことができるようになったと考えられる。今後も、本研究の成果を生かしつつ、課題の改善を通じて主体的なコミュニケーションに取り組む児童の育成を図っていききたい。

令和4年度 教育研究員名簿

小学校・外国語活動・外国語

学 校 名	職 名	氏 名
目黒区立東山小学校	主任教諭	飯田 一平
大田区立山王小学校	主任教諭	原瀬 茉莉子
中野区立江古田小学校	主任教諭	○黒川 晃文
八王子市立館小学校	主任教諭	黒岩 禎
立川市立第五小学校	主任教諭	坂井 友里
武蔵野市立桜野小学校	主任教諭	中野 かほり
三鷹市立第七小学校	主任教諭	今西 佑
府中市立府中第五小学校	主任教諭	西野 明恵
昭島市立共成小学校	主幹教諭	堺 由利子
西東京市立栄小学校	主任教諭	◎並木 朋子

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 木庭 宏明

令和4年度
教育研究員研究報告書
小学校・外国語活動・外国語

令和5年3月

編集 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849